



こころつなぐ  
2026年 春

大和ハウスライフサポート株式会社  
有料老人ホーム「もみの樹」ネオ・サミット

季刊誌

こころつなぐVOL.35 (介護付有料老人ホームもみの樹ネオ・サミット情報誌 通巻35号) 2026年3月発行

- 繁田雅弘医師  
コラム
- 館見学
- 認知症ケア  
プロジェクト
- オンリーワン  
プロジェクト

認知症の特性を理解し寄り添おう

祝! もみの樹・渋谷本町10周年  
～いままでも これからも ご入居者に寄り添って～

また笑顔が見たいから、見守り寄り添い地道にケア

亡き妻への想いを綴った俳句を発表したい

信濃川 万代橋

「こころつなぐ」

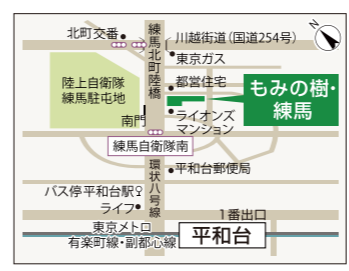
人と地域、そして心豊かな暮らしへの架け橋を築く  
大和ハウスライフサポート。  
そこには、ご入居者やそのご家族の  
さまざまな夢や願いの実現をお手伝いしたいとの  
想いが込められています。

0120-07-4165

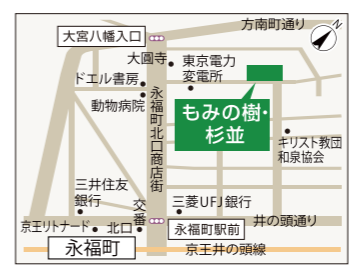
受付時間:午前9時～午後5時



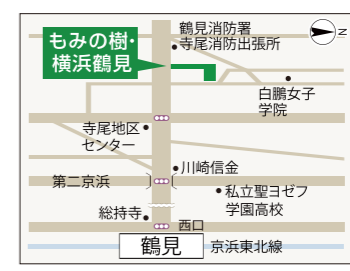
介護付有料老人ホーム  
もみの樹・練馬  
東京都練馬区平和台2-50-1



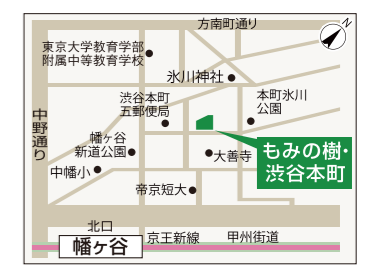
介護付有料老人ホーム  
もみの樹・杉並  
東京都杉並区和泉3-52-8



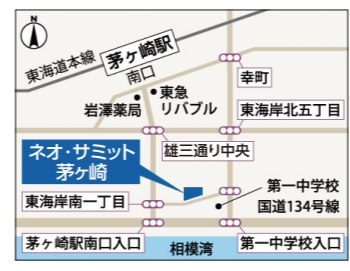
介護付有料老人ホーム  
もみの樹・横浜鶴見  
神奈川県横浜市鶴見区北寺尾4-3-1



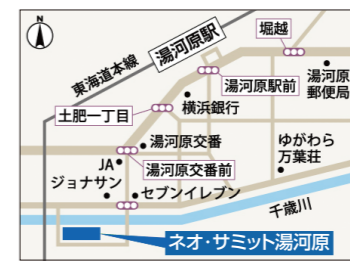
介護付有料老人ホーム  
もみの樹・渋谷本町  
東京都渋谷区本町5-25-1



介護付有料老人ホーム・住宅型有料老人ホーム  
ネオ・サミット茅ヶ崎  
神奈川県茅ヶ崎市東海岸南4-3-3



介護付有料老人ホーム  
ネオ・サミット湯河原  
静岡県熱海市泉17-2



Daiwa Life Support  
大和ハウスグループ

大和ハウスライフサポート株式会社

東京都港区三田3丁目1番7号 三田東宝ビル6階 〒108-0073 Tel 03-3456-4165(代表) Fax 03-3456-4175  
当社は大和ハウス工業(株)の100%出資による子会社です。

大和ハウスグループの経営のシンボルである「エンドレスハート」は、日本およびその他の国における登録商標または商標です。  
© Copyright 2026 DAIWA HOUSE INDUSTRY CO.,LTD. All rights reserved.

We Build ECO | 森林育成紙™使用

# 認知症の特性を理解し寄り添おう

今回は認知症の方への声かけや関わり方についてお話しします。

認知症の方への声かけは、単なる情報提供ではなく、本人の尊厳を守り、安心感を提供するための重要なケアの一部です。各認知症の疾患の特性に合わせた関わり方は、本人が「自分らしさ」を保ちながら生活を続けるための支えとなります。



繁田 雅弘 医師

栄樹庵診療所院長  
東京慈恵会医科大学名誉教授  
東京都立大学名誉教授  
認知症の啓発を行う「SHIGETAハウス」開設者



私は医療の人間ですので、医療者の視点からのご説明になってしまうことをお許しください。

## 1 アルツハイマー型認知症

### ■感情と「今」を肯定する

アルツハイマー型認知症の方には、失われていく記憶を補うことより、「今この瞬間の感情」を大切にすることが求められます。具体的には「たとえ忘れてしまっても、今の温かい気持ちや笑顔は心に残ります」と伝え、感情のつながりを信じていくことが重要です。

また、できなくなったことを指摘するのではなく、「忘れやすさがあっても、今できることや役割と一緒に大切にしましょう」と、残されている能力に目を向けます。音楽や絵画



## 2 レビー小体型認知症

### ■主観的な世界を受け入れ不安を解消する

レビー小体型認知症の方に対しては、幻視や認知の変動といった特有の症状を否定せずに受け止める姿勢が不可欠です。幻視について話してくれた際は「否定せずに受け止める」ことで、本人の孤独感や不安を軽減できます。

また、日によって調子が変わるため、頭がはつきりしている時間に「今のうちに好きなことをして過ごしましょう」

会話が難しい場合は、写真や絵カード、実物を活用して「これを使って思い出や意思を共有しましょう」と視覚情報を提示することが効果的です。

言葉の意味が失われても情動や音楽への反応は保たれるため、好きな活動を継続することが心の安定と自分らしさの維持に直結します。



言葉の意味が失われても情動や音楽への反応は保たれるため、好きな活動を継続することが心の安定と自分らしさの維持に直結します。

にしましょう」と肯定的に見守ります。社会的な孤立を防ぐため、短い時間でも人と会う機会を持つよう促すことが精神的な安定を支えます。



## 5 血管性認知症

### ■体調の波を認め小さな一歩を共に喜ぶ

症状がまだらで段階的に進行する血管性認知症の方には、日々の体調の波を認め、維持や改善を共に喜ぶ声かけが効果的です。できない日があっても「それは努力不足ではなく病気の影響です。から、自分を責めないでください」と伝え、調子の悪い日を受け入れられるよう配慮します。昨日より少し歩けたといった「小さな前進」を大きな成果として一緒に認めることが、本人の意欲を支える力になります。

また、周囲に感謝を伝えるよう勧めることで本人自身が自分の存在価値を再確認でき、周囲との絆を深めることにつながります。

## 3 意味性認知症

### ■言葉の壁を超えた意思疎通を図る

言葉の意味がわからなくなる意味性認知症の方には、言葉の正確さに頼りすぎないコミュニケーションが必要です。言葉が出にくくても「表情や仕草であるあなたの気持ちは十分に伝わっていますよ」と、今できる表現方法を肯定します。

### 支援者のゆとりが最善のケアを生む

これらの各疾患の特徴や声かけはあくまで一つの目安であり、実際には診断名は参考程度に留め、目の前の人の特徴をよく見極めることが重要です。

例えばアルツハイマー型と診断されていても、血管性認知症のように調子の波が激しい方には、その波に寄り添う声かけがより有効な場合もあります。ここでご紹介した各メッセージの背景にある、なぜその声かけが必要なのかという「理由」に注目し、その理由が当てはまる人に対して、疾患名の枠を超えて柔軟に言葉を選ぶべきです。



## 4 前頭側頭型認知症

### ■病気の影響を理解し習慣を尊重する

性格の変化や脱抑制が目立つ前頭側頭型認知症の方には、その行動が「本人の意志」ではなく「病気の症状」であることを前提とした声かけが求められます。不適切な行動が見られても「この変化は病気によるもので、あなたの人間としての価値が失われたわけではありません」と伝え、本人を責めない姿勢を明確にします。

また、同じ行動を繰り返すことは本人にとっての安心材料であるため、「安心できる毎日の習慣やルーティンを大切に

今回で繁田先生のコラム掲載は終了となります。

一年間ありがとうございました。

(編集スタッフ一同)

ネオ・サミット湯河原直営の二つの食堂  
ダイニング「蘭」と「喜楽亭」では、管理栄養  
士が栄養バランスを考え、四季折々の食材  
や地元海の幸・山の幸を用いて、彩り豊か  
な美味しいお食事をご提供しています。

湯河原の街並みを望める明るいダイニ  
ングのお好きな席にお座りいただければ、  
フロアスタッフがお席までお運びします。  
毎食後、温かい  
コーヒー・紅茶のお  
飲物サービスもご  
利用いただけます。



眺望抜群の  
ダイニングカウンター席



広々としたダイニング



朝食(和)

●朝食・夕食・和食また  
は洋食のいずれかを  
お選びいただけます。  
●昼食・ダイニングでは  
一種類のメニューのみ  
となりますが、喜楽

亭(水曜定休)をご利用いただけます。  
アラカルト・日替わりメニュー以外もご用  
意しています。

### 喜楽亭でのバリエーション

喫茶店のような雰囲気のレストラン「喜  
楽亭」では、週6日、和洋中のランチをご提  
供しています。ご予約なしに、ご家族やお客  
様もお召し上がりいただけます。

### 行事食 (お寿司の日など)

新年祝賀会、開設記念日祝い膳、敬老の  
日祝い膳、クリスマスディナーなどの「行事  
食」のほか、毎月1日開催の「お寿司の  
日」、隔月の郷土料理フェア、全国有名駅弁  
大会、バイキングなどをお楽しみいただけ  
ます。



各地の名店弁当



敬老の日祝い膳

### お楽しみランチ

毎月1回のお楽しみ  
ランチでは、調理師が  
腕によりをかけた豪  
華なお食事をご用意  
しています(要予約・別  
料金)。



お楽しみランチ



サーロインステーキ御膳



鰻蒲焼御膳

### 自家栽培の野菜

敷地内にある菜園  
「サミットファーム」で  
は、トマトや胡瓜、  
じゃがいもなど、季  
節の野菜をご入居者  
と一緒に育て、収穫  
したものを調理して  
ご提供しています。



サミットファームで収穫

### もみの樹・練馬

## 笑顔あふれる楽しいイベント盛りだくさん

### 大盛況のもみの樹祭り

10月26日に、当館最大イベントの「もみの  
樹祭り」を開催しました。

お祭りにつきものの屋台は、フランクフ  
ルトと安芸高田(あきたかた)焼き、わた  
あめをご用意しました。安芸高田焼きは  
広島県安芸高田市の新名物で、鶏肉や餅  
を使用した広島風お好み焼きですが、安  
全のために餅をはんぺんに換えてご提供  
しました。

お祭り後半には、スタッフによる二人羽  
織、ダンス、ホースでのフロア対抗大縄跳び  
を行いました。



賑わいをみせる屋台



仮装しながら大縄跳び

二人羽織では熱々おでんの早食いに挑  
戦し、ケアマネチームが優勝しました。最

下位の館長には罰ゲームとして顔全体を  
使ってケーキを食べてもらいました。



二人羽織に大笑い



続いて、2階・3階の介護主任がアナと  
雪の女王の楽曲『Let It Go』あり  
のまま〜の歌詞に合わせたダンスを披  
露しました。冷却スプレーで表現した手か  
ら出る雪や、仮装の衣装とメイクにも注  
目が集まっていました。

最後に館長からの閉会の挨拶で、お祭  
りは無事に幕を閉じました。

### 屋上散歩で秋を観賞

ある秋晴れの日、もみの樹・練馬では屋  
上庭園の散歩を行いました。満開だった萩  
の花は少しずつ散り始めていましたが、

ご入居者の方々  
は「まだ楽しめる  
わね」と、季節の  
移ろいを感じな  
がら、穏やかな時  
間を過ごされま  
した。



付近を一望できる屋上庭園

### 園芸療法でプローチ作り

毎月1階フロアにて、外部講師による園  
芸療法レクリエーションを開催しています。



素敵なプローチを制作中

この月のテーマは、  
自然素材を使った  
プローチ作りです。  
ご入居者は色鮮や  
かな葉や木の実、リ  
ボンなどを使って、  
素材選びから制作  
まで熱心に取り組  
まれています。完成したプローチは個性  
豊かな素敵なものばかりでした。

これからも、ご入居者に笑顔でお過ごし  
いただけるよう様々なイベントを企画して  
いきます。

ネオ・サミット茅ヶ崎では、年末年始に多彩なイベントを開催しました。館内外に広がる華やかな雰囲気と、笑顔あふれるひとときをご紹介します。

### クリスマス

#### ■館内外を彩るクリスマス装飾

毎年クリスマスシーズンはツリーなどを飾り、館内はクリスマスモード一色になります。屋外にはイルミネーションが煌めき、夜のネオ・サミット茅ヶ崎を幻想的にライトアップしてくれました。



#### ■クリスマス会を開催

コーラスグループ「STAG」様に、素敵な歌声で懐かしの歌やクリスマスソングを



披露していただきました。スタッフによる陽気なフラ&ウクレレショーやビンゴ大会も盛り上がり、心温まる時間になりました。

### 年末

#### ■毎年恒例の餅つき大会

とても寒かったにもかかわらず、25名の館内者にお集まりいただきました。スタッフのお子さんも参加し、館内者2名とともに餅をつき、みんなで出来立てを味わいました。



#### ■手作り梵鐘で除夜の鐘

時代と共に除夜の鐘の音を聞く機会が減ってきた昨今ですが、工作上手なスタッフが館内者楽しんでいただくこうと段ボールで梵鐘を作成しました。録音した本物の鐘の音が突く度に再生される仕組みで、突いた館内者の顔には驚きと喜びの笑顔があふれていました。



### お正月

#### ■エントランスに大凧登場

年始になると当館近隣の海岸で凧あげ大会が開催されます。そこで当館でもエントランスに直径2メートルの大凧を作成しました。その大きさと迫力は、館内者だけでなくご家族からも大絶賛されました。



#### ■サミット神社で初詣

初詣に行きたいけれど外出は難しいという館内者のために、スタッフが段ボールで神社を製作しました。突如現れた神社に、皆様初めは驚かれています。が「しっかりお参りさせていただきましたよ」と笑顔で鈴を鳴らされていました。



これからも様々なイベントを通じて、季節の移り変わりや茅ヶ崎での生活をお楽しみいただけるよう努めていきます。

## もみの樹・横浜鶴見

## 共に笑い語らい夢中になれるイベント満載

#### 和気藹々と餅つき体験

一昨年はコロナ禍で開催を見送っていた餅つき体験を久しぶりに実施しました。当日は新規の男性館内者が率先して杵を振る、周囲の方へ餅つきの方法を教えてくださる場面もありました。餅つきに参加されない方も杵を持つと、「思っていたより重たいですね」と驚かれました。鏡餅づくりは女性のご入居者を中心に和やかに進み、自然と会話も弾みました。片付けも館内者同士が談笑しながら協力していただき、終始温かな雰囲気の行事となりました。



#### 物語に引き込まれる紙芝居

衣装を身に纏ったスタッフが登場人物になりきり「愛染かつら」の紙芝居を上演しました。BGMにはDAM(デジタルアセット管理)を使用し、照明を落とすことで舞台のような空間をつくり、物語の世界観を際立たせました。語りが始まると会場は静まり返り、物語に合せて館内者の表情が変わり、笑顔がこぼれる場面もありました。普段はレクリエーションに参加されない方も足を運ばれ、「とても楽しかったです。誰が演じているのかと思いました」と嬉しい感想をいただき、皆様が物語の世界に引き込まれていたことが伝わりました。



#### 映像で広がる運動と会話

多目的室で平日の16時から17時に、映像を見ながら足踏みや腕振りを行う集団リハビリを実施しています。散歩を楽しむように、立位・座位どちらでも取り組めるプログラムです。映像をきっかけに会話が生まれることも多く、運動が難しい館内者も出身地や旅行の思い出を語るなど、それぞれの楽しみ方で参加されています。最近では関西万博の映像が加わり、皆様興味深くご覧になっていました。「あれをやりたい」と前向きな声も聞かれています。

今後は新リハビリ室の100インチ大型テレビで、迫力ある映像を楽しみながら取り組んでいただける予定です。



# 「街を愛し暮らしを愛す」 湯河原と茅ヶ崎の魅力を発信しています

「ネオ・サミット湯河原」と「ネオ・サミット茅ヶ崎」では、2025年12月9日にYouTubeチャンネルを開設し、ご入居者の暮らしのステージとなる地元の街の魅力を動画にてご紹介しています。



## YouTubeチャンネルを立ち上げた背景を教えてください。

**勝又** 「ネオ・サミット」シリーズは、お元氣な方が対象の住まいです。ご入居者にとって、生活の舞台は館内だけではありません。湯河原や茅ヶ崎といった豊かな「街」そのものが、お客様の日常の一部となります。ご入居後にどのような暮らしが待っているのか具体的にイメージしていただくためには、館と街の両方をご紹介します、地域全体を愛してもらうことが不可欠だと考えました。

**尾崎** 私が企画を具体化する際、一番に相談したのが高杉さんでした。湯河原の魅力をどう伝えるべきか、地元出身者の視点はどうしても欲しかったんです。

**高杉** 私にとって湯河原や真鶴周辺は、幼少期から慣れ親しんだ場所です。紹介したいスポットがありすぎて、内容を絞り込むのが本当に大変でした(笑)。



**尾崎** あの時の高杉さんの熱量はすごかったですね。熱意が伝わったのか、観光協会へご挨拶にうかがった際も、非常に温かく迎えてくださいました。実際にいろいろご協力いただき、地域の方々と共に歩むことの大切さを再認識しました。

## 撮影現場では、高杉さんの地元ならではのエピソードもあつたそうですね。

**高杉** 私は元々、介護スタッフとして湯河原の現場からキャリアをスタートしました。当時から地域の皆様には大変お世話になっていましたので、YouTubeチャンネルの動画制作のために、私の実家のお店に撮影協力をお願いした際、母が快諾してくれたのは嬉しかったですね。

**尾崎** 高杉さんのご実家のお店は、実際にご入居者も利用されているお店ですから、非常にリアルな紹介になりました。



## チャンネル運営に関する今後の展望や目標を教えてください。

**勝又** 私と尾崎さん、高杉さんは元々「みみの樹・渋谷本町」で共に働いていた旧知の仲間なんです。互いの強みや性格をよく知っているからこそ、忖度のない意見交換ができています。そこに去年、SNS※



※SNS：ソーシャルネットワークワーキングサービス(Social Networking Service)の略。インターネットを通じて、人々が交流し情報共有できる場所。

に強い稲葉さんが加わり、新しい風を吹き込んでくれました。今後にもご期待ください。

**稲葉** はい！これからも湯河原と茅ヶ崎の魅力をどんどんお届けします。この記事を読んで「ここを紹介してほしい」というリクエストがあれば、ぜひお気軽にご連絡ください。



**尾崎** 今後はスタッフだけでなく、ご入居者の皆様にもぜひ出演していただきたいと考えています。皆様と一緒にこのチャンネルを盛り上げ、地域の魅力を再発見する場にしていきたいですね。

**高杉** 動画でも映っていますが、お店で私の父母は「おっ母！おっ父！」なんて呼ばれています(笑)。私自身がこの街で育ち、介護の現場でもこの街の皆様に支えられてきました。その空気を、動画を通して少しでもお伝えできていれば嬉しいですね。

**稲葉** 私は高杉さんに同行し撮影現場を見学させてもらったことで、しっかり予習ができました。動画撮影の下見で茅ヶ崎を訪ねた際には、勝又さんや尾崎さんと一緒に歩き回り、私自身がすっかり街のファンになりました。新人なりの努力と発見を、ぜひ皆さんに見ていただきたいです。

**高杉** 介護スタッフとして現場にいた頃の視点も大切にしながら、今後は館内の日常風景や、スタッフの想いをもっと発信していきたいですね。

**高杉・稲葉** 最後は動画と同じくこの言葉で締めましょう。チャンネル登録とグッドボタンを、よろしくお願いたします！

Good!

【ネオ・サミット】の公式チャンネル  
「有料老人ホーム ネオ・サミット」  
[https://www.youtube.com/@neo\\_summit/videos](https://www.youtube.com/@neo_summit/videos)

### YouTubeチャンネル運営メンバー



営業推進部 部長  
勝又 賢人



入居相談室 室長  
高杉 侑弥  
湯河原の出身で街の魅力を熟知



入居支援室 主任  
尾崎 博昭  
チャンネル開設・動画制作の企画担当



入居相談室 相談員  
稲葉 さくら  
SNSに詳しくYouTube配信の強い味方

## 10周年記念イベント・もみの樹まつり



午後からは10周年記念と毎年恒例の「もみの樹まつり」との合同で盛大なイベントを開催しました。

一部で「和太鼓&篠笛-鈴木弘美-和のおけいこ紫陽花」のお二人による迫力ある演奏で、ソーラン節や炭坑節、東京音頭などの曲に合わせて、踊ったり、太鼓を叩いたり、ご入居者の皆様にもお楽しみいただきました。

二部はショート動画の上映後、スタッフが「よっちょれ」(よさこい鳴子踊り)を皆様の手拍子と声援をいただき踊りきりました。

## もみの樹・渋谷本町10周年式典



開設記念の12月1日を間近に控えた11月23日、ご入居者の皆様にご参加いただき、10周年の記念式典を開催しました。式典はくす玉割りで華やかに幕を開け、ご入居者と一緒に鏡開きでお祝いの雰囲気盛り上げました。

## 10周年記念の特別ランチ

仕切りのある豪華なお弁当箱に、牛肉の陶板焼きやアスパラベーコンの炒め物など、彩り豊かなお料理が並びました。お寿司は5種類から好きなものをお選びいただきました。

午後のもみの樹まつり後のおやつには、もみの樹がデザインされたケーキをご用意しました。



# Renovation History

オープン以来、ご入居者の暮らしの質向上を求めて、改装を実施してきました。

### Hon街 café 令和3年8月1日～



コロナ禍により、面会制限などでご入居者やご家族に不自由な思いをさせてしまっていた頃、ご入居者に楽しみをご提供できないかと考え、

スタッフにアンケートを実施しました。その結果、最も要望が多かったのが「カフェ」でした。

そこで、4階のラウンジスペースをカフェスペースに改装し、専属のカフェスタッフを配置しました。ご入居者がコーヒーを楽しみながら集える場をご提供するとともに、ナイトシアターやナイトバーなどのイベントも開催し、ご入居者の楽しみを創出しました。



### 機能訓練室 令和2年11月1日～



リハビリをさらに充実させたいというご要望にお応えし、空室となっていた居室2部屋を機能訓練室へ改装しました。

さらに、開設当初は作業療法士(OT)と言語聴覚士(ST)のみの配置でしたが、新たに理学療法士(PT)を加え、リハビリ体制を強化しました。

また、16時～17時の時間帯には、自主トレーニングができるようスペースを開放し、ご入居者に生活の中で感じる「気になること」や「不安なこと」をご相談いただきながら機能訓練を行える環境を整えています。



## PICK UP EVENT 多彩なアクティビティと地域交流

もみの樹では、プロによる楽器演奏やダンスなど、毎回異なるアクティビティを企画し、ご入居者にお楽しみいただいております。

また、毎月開催している「オレンジカフェ」では、介護予防体操やセミナーを行い、ご入居者と地域の皆様との交流を深めています。



外部講師によるフラダンス



外部講師による音楽療法(リリムジカ)



園芸サークル



手芸サークル



地域交流「cafe サバン」



パンの移動販売

# もみの樹・渋谷本町



## 祝!もみの樹・渋谷本町 10周年

～いままでも これからも ご入居者に寄り添って～

多くの皆様に支えられ、もみの樹・渋谷本町は2025年12月1日、開設10周年を迎えました。ここでは10年を振り返りつつ、記念式典やスタッフの想いをご紹介します。

### スタッフの想い～10年間を振り返って～



前館長  
勝又 賢人

オープンから総務や館長として約9年半、もみの樹・渋谷本町に携わってまいりました。ご入居者のご家族の皆様へ改めて深く感謝申し上げます。今後ももみの樹・渋谷本町が「安心と笑顔を届ける場所」であるよう願っています。



現館長  
角田 健太郎

開設10周年を迎えるにあたり、今年度から運営のバトンを引き継ぎ、館長として着任させていただいていることに改めて感慨深い気持ちを抱いております。開設から今日まで施設運営を積み重ねた経験を生かし、更なる“お客様満足度向上”につながる取り組みを実現できるよう職員一同、最善を尽くす所存です。



元総務スタッフ  
尾崎 博昭

総務スタッフ兼「渋谷の楽しい事担当」として、皆様からたくさんの「ありがとう」をいただき、私の方こそ感謝でいっぱいです。この10年間の思い出は一生の宝物です。ご入居者、ご家族、地域の皆様へ深く御礼申し上げます。

皆様と開設10周年を迎えられ嬉しく感じております。印象深い思い出は、コロナ禍にスタッフたちと食事の提供方法を検討・工夫し、無事乗り越えたことです。これからも毎日のお食事や各イベント食で、ご満足いただけるよう取り組んでまいります。



料理長  
町田 和郎

### また笑顔が見たいから、見守り寄り添い地道にケア

認知症ケアプロジェクトでは、認知症ケアのスキルアップのために社内認定資格である『D'sケアマスター』を養成し、認知症ケア専門士の資格取得を奨励しています。今回は食事や活動の量が減り、活気がなくなったご入居者への取り組みをご紹介します。

A様は、もともと明るく活動的で、多趣味な方でしたが、食欲や活気の低下に加え発熱がみられたことから、検査入院となりました。退院後は、歩行や食事を自力で行うことが難しくなり、笑顔が少なく、ご自身から会話をされる機会がほとんどみられなくなりました。

そのような変化がある中で、少しでも入院前のような元気を取り戻していただきたいという思いから、今回の取り組みを行うこととしました。

ご家族からは「筋力が低下しないよう歩行練習を続け、週に1回でも外を歩く機会を作り、日々を楽しく過ごしてほしい」とのご要望がありました。また、ご本人からも「よく分からないけれど、楽しいことをやってみたい。歩きたい」とのお言葉が聞かれたため、これらの思いを大切にしながら支援計画を立てました。

	生活上の心配事	目標・目的	当初の支援計画
①	笑顔が少なく、表情が乏しく、自らが話されることが難しくなった。	以前のように発語が増え、楽しさを感じていただけるようにする。	日中の離床時間を多くとる。車椅子から椅子へ移乗する。リビングで他者と関わる時間を作る。
②	食事を自力で召し上がるのが少なくなった。	食事をご自身で召し上がっていただく。	食事をご自身で召し上がっていただけるように声をかける。
③	自力で歩くことができなくなった。	安全に歩行する機会を増やす。	立ち上がる時間を増やし、下肢筋力の向上を図る。

#### 第1クール(2週間)

##### 【実践内容】

- 朝食後、昼食後は横になる時間を設けつつ、リビングにて過ごしていただけたが、椅子への移乗がされていない時もありました。リビングではスタッフとの会話や体操に参加していただき、関わりを多く取るようにしました。
- 食事時は食器を持つよう促し、ご自身で召し上がっていただくようにしました。声かけだけでは自ら召し上がることは少ないため、召し上がり始めるまでと、手が止まった際に声かけを行うようにしました。



- 生活リハビリとして、トイレ誘導時と排泄後に手すりを使用し、立位保持10秒を1日1回は実施しました。

##### 【評価・改善策】

- 予定通り実施できたため継続します。
- 食事については継続とし、モーニングケア時や就寝介助時なども声かけを意識します。
- 生活リハビリは、新たに「入浴日にダイニング・浴室まで腋窩介助歩行にて移動」を別メニューとして追加します(週2回)。

#### 第2クール(3週間)

##### 【実践内容】

- ダイニングでは(ご家族からの要望でもある)雑誌をお渡し、見てもらうようにしました。自らの発語は少なく、ケアの場面で声かけを多くして発語を引き出し、コミュニケーションを図りました。
- 第1クール同様スタッフが声かけを行いました。



- 立位保持は21日中、13日実施しました。入浴日の歩行は6日中、3日実施しました。

##### 【評価・改善策】

- 予定通り実施し、声をおかけすると表情が和ぐ場面もみられたため取り組みを継続します。
- スタッフの声かけにより、摂取開始となるが多かったため、継続していきます。
- 生活リハビリの新メニューの「浴室までの介助歩行」は入浴誘導職員が忘れてしまうことがあったため、トイレ誘導時にも歩行介助を行うこととします。



#### 第3クール(3週間)

##### 【実践内容】

- 午前中の日課である体操においては、頻度は少ないものの自発的に体を動かされるようになりました。
- 食事は今まで同様食べ始めの促しを徹底しました。

- 生活リハビリはほぼ毎日継続して取り組みました。第2クールに比べ、ご自身で立ち上がりをされるようになりました。その際、トイレへのご案内やフロア内の歩行ができました。

##### 【評価・今後に向けて】

- 発語や自力摂取については、大きな変化はみられませんが、声かけや冗談に以前のように微笑んでいただけるよう関わりを続けていきます。
- 新たなメニューとして「昼食後の口腔ケア時、リビングと居室の移動を介助歩行する」こととします。
- 生活リハビリは、歩行能力の向上ではなく、ご家族の希望でもあるように維持に重きを置き、無理のないよう引き続き取り組みを行うこととします。

これからも、ご入居者お一人おひとりの歩んでこられた人生や思いを尊重し、日々の小さな変化にも丁寧な気づけるよう取り組んでまいります。6館で連携しながら、専門性の向上を図り、より良い認知症ケアの実践に努めてまいります。

# 感動プロジェクト

オンリーワン

T様(90代前半)要介護1 もみの樹・杉並

## 亡き妻への思いを綴った俳句を 発表したい

### 【T様について】

#### ご夫人を失い茫然自失

令和5年3月に、もみの樹・杉並へご夫婦でご入居されたT様は、その後、同年10月にご夫人を亡くされました。それ以降は、ご夫人との思い出と向き合いながら、静かに日々を過ごされていました。やがて少しずつ気持ちを落ち着かせていかれる中で、T様はご夫人への思いを俳句に込めて表現されるようになりました。俳句を通して、ご自身のお気持ちを整理し、大切な時間として向き合われていました。

### 【取り組み実施のきっかけ】

#### 夢は俳句の品評会

令和6年6月、俳句を作られているT様から「俳句の品評会をして、皆さんに好きな俳句を選出してもらおう、そんな大人

### 【取り組み第二弾】 強い思いで冊子を制作

#### 品評会から1

年近く経ち、T様から「発表するだけではなく自分の思いをまとめて冊子にしたい」というお声をいただき、手作りの冊子を作る計画も始動しました。



当初は年内の完成を目標に、書き溜めた俳句の整理や、俳句に込めた思いを文章にまとめていただきました。その過程でT様は、「急いでいないから」とおっしゃる時もあれば、「自分には時間がないんだ」「皆が待っているんだ」と急がれるご様子もみられるようになりました。そこで、T様の感情の起伏や体調に寄り添いながら、少しでも早く完成できるように、業者の力を借りることとなりました。ご夫人への思いが届くように、手書きの温もりを活かした冊子に仕上げました。

完成後の発表会では、T様が冊子に綴ったご夫人への思いを語られました。聴かれていたご入居者の皆様からのお祝い

の遊びをしたんだ」とうかがいました。フロアスタッフもT様の思いを大切にし、品評会開催に向けてお手伝いするようになりました。

### 【取り組み第二弾】

#### 元気に俳句品評会を開催

普段、T様はスタッフの見守りのもと、杖を使用して歩行されていました。品評会では座ったままでの発表を予定していましたが、「立って皆さんに伝えたい」というT様の強いご希望がありました。若い頃から体を動かすことが好きだったこともあり、その思いを実現できるように、無理のない範囲でリハビリにも前向きに取り組まれました。

9月には15作品の俳句が完成し、品評会当日は、他のご入居者に向けて、それぞれの俳句に込めた思いや背景を丁寧にお

#### 俳句冊子の制作スケジュール

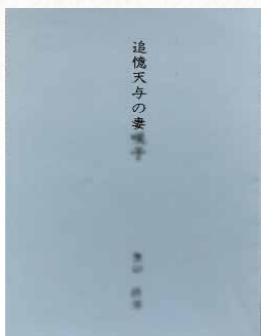
8月5日～ 原稿執筆  
8月23日～ 原稿のチェック  
赤字修正  
俳句の選別

#### 俳句の清書

9月3日～ 原稿と  
俳句のデータ化  
最終チェック  
9月30日 業者発注  
10月19日 発表会



発表会の様子



できあがった冊子

の言葉や感想を耳にされ、取り組みをやり遂げた満足感に包まれているご様子でした。

T様は「良い物ができた」とご家族にも冊子を配り、大変喜ばれていました。当初の予定だった手作りの和本とはなりませんでしたが、体調の変化やお気持ちに寄り添うことができました。

その後、以前は朝食を召し上がらず午前中はお部屋で休まれていることが多かったT様が、朝食を欠かさず召し上がり、

### 感動プロジェクト 「オンリーワン」とは

ご入居者が人生でやり残したことや、諦めてしまっていることを実現できるようお手伝いさせていただき、その人らしさを取り戻す機会をご提供しています。

日々の生活の中で目標に向けて励む充実感や、夢を実現した達成感を味わっていただけるプロジェクトです。



話しされました。はつきりとした声で語られるT様のご様子は、参加されたご入居者やスタッフの心に残り、印象深いひとときとなりました。  
また、この俳句の品評会が他のご入居者との交流のきっかけになり、少しずつ明るい表情が増え、T様の中に「またやりたい」と新たな意欲も芽生えたようです。



フロアに出てこられることが増え、生活のリズムが整っていききました。

### 【今後について】

#### ”秋から冬“の作品発表に向けて

今回の俳句は、春から夏でしたが、秋から冬“の作品を作りたいというお気持ち持たれています。ご夫人と共に人生を歩まれてきた思いを表現していただき、T様の生きていく活力になるよう、体調に配慮しつつ支援していきます。

### スタッフボイス



もみの樹・杉並  
ケアスタッフ  
稲垣 重美

ご夫人を亡くされた後のT様は、深い喪失感の中におられました。日々涙を流されるほどでしたが行き場のない感情を俳句に託すことで、少しずつ前を向けるようになられたご様子です。私たちスタッフも、多職種で連携しながらT様の思いをくみ取り、寄り添い続けて参りました。かつての活気を取り戻された今の姿を拝見し、スタッフ一同心より嬉しく思っています。